

職業に対する差別を許さない声明

東京清掃労働組合は、すべての差別を許さず、誰もが安心して生活できる社会づくりに向けた活動に取り組んでいる。

こうした中、ある就活情報サイトに、看過できない職業差別事案の記事が掲載された。その内容とは、「底辺職とは？底辺の仕事ランキング～回避方法も～」というものである。記事によると「社会にとって必要な仕事」「必須の職業」などと擁護しながらも、“土木・建設作業員”“介護士”“保育士”等と並び“ゴミ収集スタッフ”（記事原文のまま記載）も含め12の職種を「底辺職」と位置付けている。また職の特徴について（1）肉体労働である（2）誰でもできる仕事である（3）同じことの繰り返し・・・と解説しており、デメリットについては（1）平均年収が低い（2）結婚の時に苦勞する（3）体力を消耗する・・・を挙げた。

今年6月下旬、記事がツイッター上で拡散され、『『底辺の仕事ランキング』として就活生に差別意識を植え付けていた』『職業差別を助長する記事』『世の中の仕事をバカにしてるのはありえない』と物議をかもした。こうした指摘を受けて、記事はすでに削除されている。このサイトを運営している会社はマスコミの取材に対し、「今回の記事の作成者に、改めて記事の作成経緯を含め事実関係を確認し、弊社内で、今後の対応について検討中でございます」と回答している。

我われ清掃職場に働くすべての労働者は、年々激甚化する自然災害時の対応や、2年以上に亘るコロナ禍の中、感染リスクと向き合い職務を遂行してきた。また猛暑や極寒、その他厳しい気象条件や社会情勢の中でも、住民の衛生環境を守るため、昼夜や年末年始も問わず奮闘してきた。さらに、日々変化し多種・多様化している住民ニーズに対応するため、高齢者等訪問収集や、未来を担う子どもたちへの環境学習などの普及啓発にも積極的に取り組んでいる。こうした職員のたゆまぬ努力が多くの住民からの感謝や激励のメッセージにつながり、当たり前前の社会生活を営むために必要不可欠な仕事として認知されてきた。

我われが住民とともに長年築き上げてきた職を「誰でもできる仕事」「同じことの繰り返し」などと評することは、断じて看過できるものではない。ましてや、優劣をつけることは、職業差別意識を助長するものであり、東京清掃労働組合は、満腔の怒りを持って抗議する。

職業差別をはじめ、社会には多くの差別・排外主義が根深く残っている。我われ東京清掃労働組合は、あらゆる差別を根絶していくため、今後も取組を強化していくことを、ここに表明する。

2022年7月1日

東京清掃労働組合